一般社団法人倫理研究所

平成25年度 **年次報告**

ANNUAL REPORT 2012—2013

RINRI Institute of Ethics

はじめに

平成 25 年度は、社団法人から一般社団法人へ移行する前の最後の年度であり、法令に基づく新組織体制への移行の準備を仕上げました。「地球倫理の推進」「日本創生」の目標理念のもとに、昨年度の基本方針を深化せしめ、個人・法人会員組織の「拡充」を中心に公益活動を力強く展開し、各部門とも計画通りに業務・活動を遂行しました。

普及部門の生涯局では「おかあさん」をテーマに全国 201 カ所で家庭倫理講演会を、全国7カ所で「未来を創る」をテーマに青年弁論大会を開催。純粋倫理の実践を広く提唱するとともに、「堅実な普及・確実な成果」を目標の一つに掲げ、会員数は 190,330 名に達しました。

文化活動は「第 8 回しきなみ子供短歌コンクール」を開催。一部応募作品へ小学校国語の教科書に掲載依頼が来るほど、感性豊かな作品が数多く集まり、盛大に表彰式が行なわれました。また広く一般の方々を対象にした、書道・短歌の指導を積極的に行ない、国民芸術として公益性の高い文化活動を展開しました。

法人局では 10 万社達成に向け、単会の充実を最優先として組織力を強化。さらなる役員の資質向上ならびに新たな人材発掘に努め、活力溢れる実践・普及活動を推進しました。倫理経営講演会は「出せば入る」「運命は自らまねく」をテーマに全国 618 カ所で開催。年度末までに倫理経営の学習会場となる倫理法人会数は 689 カ所。会員企業数は 63,880 社に達し、倫理ライセンスの認定企業は新たに 8 社増えて合計 174 社となりました。

研究部門では、純粋倫理の深化と倫理文化学の構築をめざした研究を推進すべく、新たに特任研究員を加え、さらなる専門的・重層的な研究を行ないました。また日本文化に関する特別講演会を8月に開催。さらに、道徳教育および家庭教育を推進する外部研究者・関係団体と連携を図るなど、多面的な研究活動を行ないました。

教育部門では、富士教育センターにおいてほぼ見込み通りの受講者数を得ました。恵まれた自然環境と整備された施設を最大限に活かし、感謝報恩の真情と不屈の実践力を体得する生活倫理・企業倫理・各種セミナーを通じて「いのち輝く実践者」を数多く養成しました。

出版部門では、母親を見つめ直し、その「至純の母性」の大切さを浮き彫りにした『おかあさん』、純粋倫理に基づく体験や実践のヒントを綴った『毅然と立つ』『倫理経営のすすめ』のほか、倫理文化研究叢書『われ、日本をかく語れり』を発刊。定期刊行物も計画通り刊行いたしました。

広報活動では、「第 16 回地球倫理推進賞」の国内および国際活動部門を選出して贈呈式を挙行。「第 32 回地球倫理フォーラム」では家庭の意義・家族の絆を深める実践を提言しました。またメディアを積極的に活用し倫理運動のバックアップ強化を図りました。

国際部門では沙漠緑化事業に第 54・55 次隊を派遣し、植林数は総計約 32 万本に達しました。第 54 次隊での「日中青年沙漠討論会」では地球環境と経済発展をテーマに活発な討論を行ない、植林を通じて日中青年の相互理解をより深めました。また、アジア諸国の留学生９名、中国内蒙古大学学生 77 名に「丸山奨学金」を支給。一般市民への普及が広がるブラジルのほか、アメリカ・台湾では倫理文化講演会を通じて普及に力を入れました。

そのほか、東日本大震災教育支援基金（通称“りんりん基金”）の運用として、東北三県（岩手・宮城・福島）の高校３年生を対象に「奨学サポート」を実施。第１期奨学生 10 名を認定し、大学・短大在学期間中の奨学金支援をスタートさせました。また「タグボート支援」として、被災地での教育環境整備に尽力する団体への支援を継続実施しました。

本年次報告では、事業の詳細について、写真や図表を多用して包括的にご紹介します。

一般社団法人倫理研究所
平成25年度 年次報告

（自　平成 24 年 9 月 1 日
至　平成 25 年 8 月31日）

ANNUAL REPORT

平成 25 年度 活動トピックス ―― 2

「地球倫理の森」創成／第 16 回地球倫理推進賞／第 32 回地球倫理フォーラム／第 8 回しきなみ子供短歌コンクール／東日本大震災教育支援基金（通称：りんりん基金）／社会教育功労者表彰／国際倫理教育支援

家庭倫理の会活動の組織的展開 ―― 8

倫理法人会活動の組織的展開 ―― 12

文化活動の推進 ―― 16

国際交流の推進 ―― 17

教育・研修 ―― 18

出版活動の推進 ―― 19

純粋倫理の総合的研究 ―― 20

倫理研究所の事業概要 ―― 22

平成25年度 活動トピックス

民間の社会教育団体として、さまざまな生涯学習活動を展開しました。「第16回地球倫理推進賞」「第32回地球倫理フォーラム」「第8回しきなみ子供短歌コンクール」などを開催するとともに、東日本大震災の被災地への教育支援活動を継続して行ないました。

日中両国の青年が手を携えて汗を流した第54次沙漠緑化青年隊

磴口では2日間で街路樹の苗木500本を植林

共に汗を流した現地の大学生と一緒に記念撮影

「地球倫理の森」創成

平成11年よりスタートした中国内蒙古自治区恩格貝（おんかくばい）クブチ沙漠での「地球倫理の森」創成事業。平成25年度も2隊の沙漠緑化隊を編成し、植林活動を行ないました。

第54次沙漠緑化青年隊（4月27日～5月4日）には、日本の青年30名が参加。中国から64名の大学生ほか有志24名も合流し、日中両国の青年が手を携え、植林にあたりました。

第55次隊（7月28日～8月3日）には会員有志25名の総勢32名が参加。従来の植林地であるクブチ沙漠に加え、さらに西方300キロ内陸のウランブハ沙漠の磴口（とうこう）に、日本の緑化隊としては初めて足を踏み入れ、環境整備のための街路樹の植林も敢行。合計3,100本を植林し、通算の植林本数はのべ32万495本となりました。（関連記事 P.9）

今後の活躍を誓って笑顔で手を合わせる両団体
左から金華山シカ行動研究グループ・樋口尚子氏、南正人代表、NPO法人シャンティ山口・角直彦代表理事、佐伯昭夫事務局長

第16回 地球倫理推進賞

（後援：文部科学省・産経新聞社・全国民間ラジオ局37社）

地球倫理を推進する団体や個人を顕彰する目的で、平成10年に創設された「地球倫理推進賞」。第16回は42件（国内活動部門23件、国際活動部門19件）の応募が寄せられ、厳正なる選考の結果、金華山シカ行動研究グループ（国内活動部門）、NPO法人シャンティ山口（国際活動部門）の受賞が決まりました。

金華山シカ行動研究グループは、宮城県の離島である金華山でニホンジカの生態研究調査を20年以上実施。野生動物と人間の共存に寄与しています。NPO法人シャンティ山口は、タイ北部の山岳少数民族の貧村で自立支援活動を展開。特に日本の堆肥利用文化を活かした「エコトイレ」の普及により、現地の自然環境に則した衛生向上に成果をあげています。

平成25年3月27日、倫理文化センターにて贈呈式が行なわれ、第1部では、両団体に表彰状と副賞100万円、文部科学大臣賞が贈られました。第2部では、記念講演として各団体の代表がこれまでの取り組みと成果を、スライドを交えて紹介。「地球倫理」を真摯に実践する両団体に対して、330名の出席者から盛大な拍手が送られました。

のべ700頭のシカを一頭ずつ識別・追跡調査

堆肥を利用したメタンガスに着火。家庭や幼稚園給食の調理時に利用される

文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課　藤江陽子課長

第 32 回地球倫理フォーラム

（後援：文部科学省）

平成 25 年 4 月 21 日、「これからの日本の教育」をテーマに、第 32 回地球倫理フォーラムが大垣市民会館（岐阜県）で開催され、1,314 名が参加しました。
文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課課長の藤江陽子氏が、「家庭はすべての教育の出発点」という方針のもと、現在、文部科学省が取り組んでいる家庭教育支援について説明。親同士の情報交換や子育ての学びの場としての公民館の提供や、子育てサポーターや民生委員、元教師、保健師、ボランティアなどを登用した「家庭教育支援チーム」による家庭訪問など、行政・学校・地域が三位一体となった支援活動を展開していくと述べました。続いて丸山敏秋理事長が、「家族の絆をはぐくむ教育」と題して講演。家庭の意義や、家族の絆を強めるための純粋倫理の実践などについて述べました。

742 名の来場者が見守る中、子供たち一人ひとりに表彰状が手渡された

第8回しきなみ子供短歌コンクール

（後援：文部科学省・全国民間ラジオ局 37 社）

平成 25 年 2 月 17 日、第 8 回しきなみ子供短歌コンクール表彰式がニッショーホール（東京・虎ノ門）で開催され、742 名が参加しました。全国の小学生 65,645 名（1,377 校）の応募があり、最優秀にあたる「しきなみ子供短歌賞」３名と、「特選」30 名に丸山理事長より表彰状が授与されました。また、「しきなみ子供短歌賞」受賞者３名には、文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長補佐・平川康弘氏から「文部科学大臣賞」が贈られました。

【しきなみ子供短歌賞・文部科学大臣賞受賞作品】

［低学年の部］髙橋彩音／福島・1年生
ふくしまにほうしゃのうがなかったらそとでいっぱいかけっこしたいな
［中学年の部］白鳥翔太／埼玉・4年生
おじぎそうそっとふれるとおじぎするれいぎただしいふしぎなはっぱ
［高学年の部］南雲健太郎／東京・6年生
寿と金色の文字桐小箱ぼくの命と母をつなぐ緒

「しきなみ子供短歌賞」受賞者へ丸山理事長よりインタビュー

表彰後、晴れやかな顔で記念撮影

倫理文化センター（東京･千代田区）にて開催された､りんりん基金奨学サポート「第1期奨学生認定書授与式」

東日本大震災教育支援基金（通称：りんりん基金）

平成 23 年3月 11 日に発生した東日本大震災の復興支援として、倫理研究所は教育支援基金を開設。被災地での基金の活用として、「奨学サポート」「タグボート支援」の2つの柱で教育支援を行なっています。（平成 25 年 8 月 31 日時点での基金残高は 5 億 431 万円）

基金の使途①「奨学サポート」

震災によって経済状況が急変し、大学進学の困難な高校生が、進学をあきらめずにすむよう援助し、東北の、日本の将来を支える人材に育ってほしいという願いを込めて発足しました。平成 25 年度は第 1 期奨学生 10 名が決定し、入学支度金、授業料、生活費として総額 1,556 万円の奨学金を給付。それぞれに夢を抱き、将来の社会貢献を誓った学生の勉学を卒業まで支援します。

基金の使途②「タグボート支援」

被災地の子供たちの成長を見守り、教育支援を行なうボランティア団体や地域活動への活動金助成を行ないました。平成 25 年度は 18 の団体や活動に対して総額 5,050 万円を支援（のべ 23 団体に 9,672 万円を支援）しました。

平成 25 年度支援団体一覧

福島大学・人間発達文化学類／おはなしころりん／生井ストレス科学研究所／水戸昇教育相談所（大玉畑の学校）／ NPO 法人東北復興支援きずなの輪／仙台グリーフケア研究会（NPO 法人子どもグリーフサポートステーション）／一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン／ NPO 法人ココネット／ NPO 法人日本クリニクラウン協会／南部桜下村塾／ワタノハスマイル／社会福祉法人ゆめみの里／ NPO 法人国際コンサルティング協会／一般社団法人地球の楽好／ NPO 法人銀座ミツバチプロジェクト／ NPO 法人花巻少年少女創造活動支援協会／認定 NPO 法人マナーキッズプロジェクト／社会福祉法人青葉学園

社会教育功労者表彰

平成 24 年度「社会教育功労者表彰式」が 11 月 13 日、文部科学省講堂において開催され、田中裕人法人局参事が表彰されました。

田中氏は株式会社菓匠三全の代表取締役社長として、「仙台銘菓萩の月」をはじめとする和洋菓子の製造・販売を手がけ、宮城、岩手、山形、福島、東京で事業を展開。昭和 61 年、倫理法人会に入会。以降、仙台市倫理法人会初代会長、法人レクチャラー、宮城県倫理法人会会長、倫理経営インストラクター、倫理経営上級インストラクター、法人スーパーバイザーを歴任し、純粋倫理の普及に尽力。平成 18 年 9 月より 2 期 6 年にわたり倫理研究所理事を務め、社会教育の発展にも多大に貢献したことが高く評価されました。

表彰を受けて田中氏は「震災から 1 年 8 カ月。このような表彰をいただくことが出来たのも、本当に沢山の皆様のお力添えがあってのこと。丸山敏雄先生のお言葉に触れ、嬉しいこと、悲しいこと、身に起こるすべての出来事は必然であり、前に進む糧になるとの考えに至り、全ての事柄に感謝の気持ちが湧いて参りました。ありがとうございました」と喜びを語られました。

国際倫理教育支援

中国からの留学生、楊雅琳（ヨウ ガ リン）さん（早稲田大学）と李斌瑛（リ ビンエイ）さん（東京大学）

将来、日本との学術・文化交流の架け橋となる人材育成を目的に、「丸山奨学金制度」として、“日本研究” を志すアジア諸国からの留学生および研究者に奨学金を支給し、勉学を援助しています。平成 25 年度は5カ国（中国・シンガポール・フィリピン・カンボジア・マレーシア） 9名の留学生（丸山奨学生）に総額 1,148 万円の奨学金を支給しました。

奨学生は各自の専門テーマを探究するとともに、静岡県御殿場市にある教育施設、富士高原研修所での体験学習を通して、倫理研究所の推進する「地球倫理」を学び、日本精神文化の理解を深めています。

また、同奨学金は中国内蒙古大学にも設立されており、平成 25 年度は同大学生 77 名に総額 200 万円を支給しました。

家庭倫理の会活動の組織的展開

「家庭をよくし、地域をよくし、日本をよくする」目的のもと、地域密着、地域貢献型の活動を組織的に展開しました。純粋倫理を積極的にアピールし、未普及地域への拠点づくりを着実に推進。実践・学習の場である「おはよう倫理塾」を磨き高め、愛和の家庭づくり、地域貢献のできる人材育成に努めました。

月刊誌『新世』

地域における生涯学習活動

家庭倫理講演会
（後援：文部科学省）

「おかあさん」をテーマに全国で開催しました。家庭教育の重要性を説き、感動に満ちた生活をおくるための夫婦・親子のあり方や家庭における感謝の心の重要性を、純粋倫理の具体的な実践を交えて提言しました。

開催会場	参加延べ人数
201 カ所	70,919 名 （未会員 27,907 名）

おはよう倫理塾

毎日欠かすことなく早朝 5 時から開催。さわやかな笑顔に囲まれて、老若男女が明朗・愛和・喜働の実践に励み、『万人幸福の栞』を中心とした、純粋倫理の学習を深めました。

開催会場	参加延べ人数
475 カ所	1,998,754 名

こども倫理塾

小学生を対象に「まなび」「あそび」「しつけ」を三本柱として開催。「5Acts（ファイブアクト）」の実践を奨励し、あいさつや後始末など、純粋倫理を基本とした生活習慣の体得を図りました。

開催回数	参加延べ人数
829 回	11,289 名

地域に役立つ活動

子育てセミナー

乳幼児期や小・中学生の子供を持つ親を対象に実施しました。純粋倫理に基づいて、子育ての要点をわかりやすく解説。子供の年代ごとに対象者を編成したセミナーは、グループディスカッション、質疑応答、生活倫理相談など充実した内容で、若い母親や父親に好評を博しました。

開催回数	参加延べ人数
1,016 回	12,588 名

全国一斉清掃

地域行事へ積極的に参加し、地域の活性化に貢献しました。平成 24 年 9 月に全国主要都市の公共施設（駅周辺、公園、国道、河川敷など）で大規模な清掃を実施。地域の美化・浄化に取り組みました。

開催会場	参加延べ人数
118 カ所	3,404 名

青年活動

青年弁論大会

平成 25 年2月 17 日から平成 25 年7月7日にかけて、「未来を創る」をメインテーマに全国 7 カ所で「青年弁論大会」を開催しました。3,577 名（うち青年 521 名）が参加し、盛況裡に終了しました。

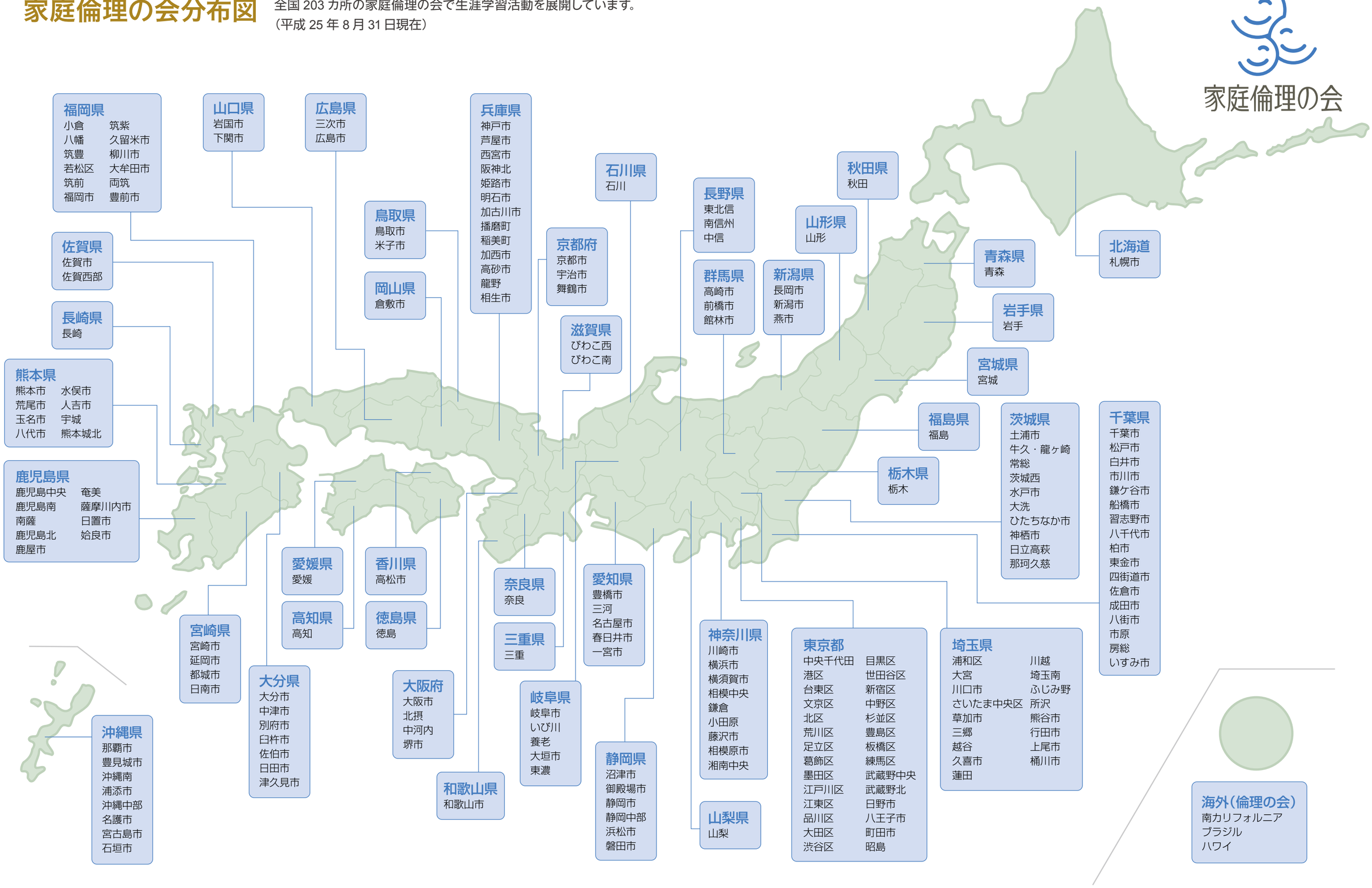
「地球倫理」実践活動

平成 25 年4月 27 日～5月4日、中国内蒙古自治区恩格貝のクブチ沙漠で、沙漠緑化の植林活動を行ないました。日本から 30 名の青年が参加し、中国からも北京市、浙江省、内蒙古自治区など、7大学 64 名の大学生と有志 24 名が参加。スタッフを合わせ総勢 125 名が、ポプラの植林活動を行ないました。また、「日中青年沙漠討論会」では、昨年同様「地球環境と経済発展」をテーマに熱い論戦が繰り広げられたほか、活発な意見交換や親睦交流などを行ない、「地球倫理」の実践活動として、こころの教育の場として、両国青年の絆を一層深める機会となりました。

家庭倫理の会分布図

全国 203 カ所の家庭倫理の会で生涯学習活動を展開しています。
（平成 25 年 8 月 31 日現在）

家庭倫理の会



倫理法人会活動の組織的展開

「日本創生」の実現、会員企業 10 万社体制にふさわしい組織の構築をめざし、「拡充」をキーワードに単会の資格復帰と活性化を図り、未普及地域への計画的な開発を推し進めました。また、倫理経営インストラクター、法人レクチャラーを厳選し、倫理的信念を持った人材の育成に力を注ぎました。

隔月刊誌『倫理ネットワーク』

朝礼用冊子『職場の教養』

倫理経営講演会

平成 25 年 1 月から 6 月にかけて、「出せば入る」「運命は自らまねく」をテーマに掲げて開催しました。事業体験や朝礼の実演を交え、倫理経営の重要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	参加延べ人数
618 カ所	80,166 名

経営者モーニングセミナー

毎週 1 回、早朝に全国 689 会場で開催。参加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、純粋倫理の学びを核として、各界で活躍する講師の体験談などを交えて、企業を健全な繁栄へと導く「倫理経営」についての学びを深めました。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	参加社数	参加延べ人数
33,915 回	784,082 社	899,750 名

職場朝礼の推進

社員の能力向上と企業の健全な繁栄に向けて、活力あふれる職場朝礼を推進しています。その浸透のために「朝礼研修」に力を注ぎ、朝礼を実施する企業の増大を図りました。また、職場朝礼用のテキストである『職場の教養』（非売品）を毎月 192 万部発行し、会員企業に提供しました。

後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的として、純粋倫理の学習と実践を通し、よりよい生活習慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた経営者の養成に力を注ぎました。

新潟・長野・埼玉・東京・千葉・石川・沖縄の1都6県で実施し、年間 7 ～ 11 回開塾。総勢 90 名が参加しました。

経営者の集い

広く倫理経営を伝えることを目的に、各倫理法人会で定期的に開催しました。「経営者モーニングセミナー」に参加できない会員や、初めて出席する経営者を対象に、法人レクチャラーによる事業体験報告を通して、純粋倫理についての学びを深める勉強会を実施しました。

開催回数	参加延べ人数
1,470 回	25,129 名

法人レクチャラー会

自らの倫理実践による事業体験を語り、倫理経営の醍醐味を伝える法人レクチャラーを対象に、平成 24 年 10 月に研修会を実施（出席者 546 名）。「経営者の集い」「経営者モーニングセミナー」における体験発表者としての実践力と話力の向上に努めました。

倫理経営インストラクター会

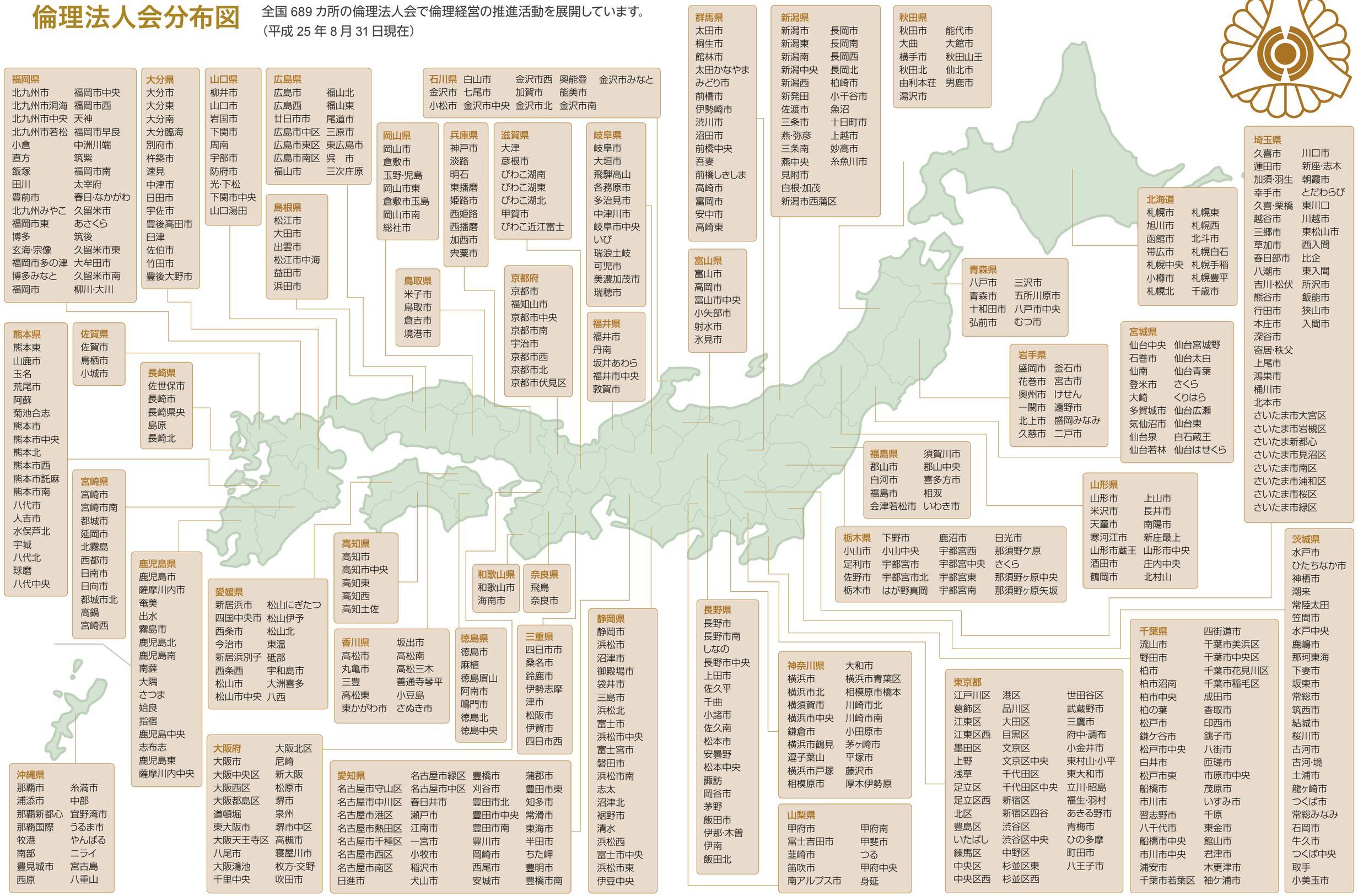
純粋倫理の理解と倫理指導力の向上を図るため、平成 25 年1月に開催しました（出席者 217 名）。平成 25 年度は「倫理経営上級インストラクター」 5 名、「倫理経営インストラクター」20 名が新たに認定されました。

倫理ライセンス「倫理17000」

地域社会に貢献する企業づくりと、倫理経営を顕著に推進している企業が一堂に会し、さらなる向上をめざして相互研鑽を深めました。また、新たに8社の会員企業が倫理ライセンス「倫理 17000」に認定されました。

倫理法人会分布図

全国 689 カ所の倫理法人会で倫理経営の推進活動を展開しています。
（平成 25 年 8 月 31 日現在）



文化活動の推進

「秋津書道会」は 291 支苑、「しきなみ短歌会」は 373 支苑、秋津・しきなみ合計会員数は 9,258 名となりました。「初めての書道教室」や「初めての短歌教室」などを開催して広く一般に参加を呼びかけるなど、文化活動による倫理普及の取り組みは、着実に広がりを見せ実績を上げています。

月刊誌『秋津書道』

秋津書道会

同会の特色である《自分の思いを書く》作品づくりに取り組むべく、会員を対象とした「第６回秋津賞・秋津こども賞」を開催しました。秋津賞には 423 名、秋津こども賞には 63 名の応募がありました。

また、各地の家庭倫理の会が書道展・文化展を地域の公共施設を会場に開催。「第６回秋津賞・秋津こども賞」の入賞作品を巡回展示し、会員以外のの方々にも好評を得ました。このほか、会員に限らず広く参加者を募る「初めての書道教室」などを開催しました。

月刊誌『秋津書道』は、年間競書出品総数 28,944 名となりました。毎月掲載している「秋津書道体験記」も好評を博しました。

月刊誌『しきなみ』

しきなみ短歌会

会員以外の方々を対象に、広く参加者を募る「初めての短歌教室」を積極的に開催することにより、入会者も着実に増加してきました。第 17 回「しきなみ賞・しきなみ新人賞」は応募総数 551 名。入選作品では、高齢者の若々しい感性の作品などが注目されました。

月刊誌『しきなみ』は、年間の出詠者総数が 61,319 名となり、全国の短歌結社中、出詠者数で 12 年連続トップとなりました。毎月掲載している「しきなみ体験記」も引き続き好評を博しました。

国際交流の推進

海外組織の育成ならびに国情に応じた倫理普及・交流を展開し、「アジア（世界）のタグボート」として倫理道徳の昂揚に寄与しました。「秋津書道会」「しきなみ短歌会」の活動を充実させ日本の伝統文化を伝えつつ、幹部研修や講師研修にも力を注ぎ、組織運営の強化と純粋倫理の普及拡大を図りました。

倫理研究所ＵＳＡ（南カリフォルニア倫理の会）

平成 25 年 5 月 19 日、倫理文化講演会を開催し、120 名が参加しました。

研究員・専任講師を年間７回派遣。毎月、「幹部研修」「りんりセミナー」「モーニングミクサー」を実施し、会報『おはようロサンゼルス』を発行。活動単位である「南カリフォルニア倫理の会」の組織運営と普及力の向上を図り、ロサンゼルスを拠点に日系諸団体・教育関係者へ純粋倫理を浸透すべく努めました。さらに、文化活動（「秋津書道会」「しきなみ短歌会」）を通して日本の伝統文化を伝えつつ、日系社会へ純粋倫理をアピールしました。また、「倫理ビジネスネットワークセミナー」を通して日系企業の経営者や社員に倫理経営の必要性を訴えました。

ニューヨーク倫理友の会

ニューヨークを拠点に活躍する日本人、日系人、企業駐在員などを対象に『NEWS LETTER』を毎月発行。交流会を通じて純粋倫理の情報を発信しました。そのほか、平成 24 年 11 月に「第 12 回年次総会」、平成 25 年 5 月に「春のランチョン」を開催しました。

ハワイ倫理の会

ホノルルを拠点にラジオや新聞などのメディアを活用しながら日系社会への普及拡大を図りました。研究員・専任講師を年間６回派遣。倫理講演会を定期的に開催しました。毎週「土曜倫理の集い」を事務所で開催し、内容・組織運営両面の充実を図るとともに、ハワイを訪問する日本の会員との交流も着実に増えています。

ブラジル倫理の会

組織的運営の強化と純粋倫理の普及拡大を図るべく、平成 25 年度も研究員派遣を４回実施しました。セントロ支部と聖北支部では毎週土曜日に「朝の集い」を開催。アメリカーナ支部では、ブラジル人を対象にポルトガル語での普及を推進。ポルトガル語訳の倫理図書を１冊刊行しました。また、ピラシカーバ支部が平成 24 年 10 月７日に設立しました。

会報『ブラジル倫理の会』を毎月発行して会員相互の関係を密にするとともに、会報を通した「南カリフォルニア倫理の会」との交流も行なわれました。

そのほか「若手経営者の集い」や現地企業への社員セミナーなども行ない、法人への倫理普及にも力を入れました。

そのほか、平成 24 年 12 月 24 日には第 19 回訪日使節団として松柏学園・大志万学院から生徒 16 名、教師２名が来日。倫理研究所を見学した後、平成 25 年１月 17 日から 18 日にかけて富士教育センターにてセミナーを受講、純粋倫理の学びを深めました。

中華民国倫理研究学会との交流

講師研修・分会長研修などを行ない、幹部の育成と組織運営の支援にあたりました。また研究員と専任講師を６回派遣。平成 25 年５月には「第 26 回倫理文化講演会」を台中市にて開催し、550 名が参加しました。

中国との交流

中国社会科学院応用倫理研究センターをはじめ、中国倫理学会との学術交流を推進。また、倫理研究所中国事務所を拠点に倫理普及と倫理交流の調査研究を図り、中国語ホームページにより純粋倫理の浸透に努めました。

教育・研修

家庭倫理の会の会員を対象とした「生活倫理セミナー」、経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、小学生と保護者を対象とした「富士山こども倫理塾」など、富士山麓の自然豊かな富士高原研修所において、各種セミナー・講座を開催しました。平成 25 年度の受講者総数は 5,347 名でした。

青少年教育

小学生と保護者を対象とした「富士山こども倫理塾」（平成 25 年8月3日～5日）を実施。小学生は「あそぶ・まなぶ」、保護者は「豊かな心を育てる」をテーマに富士山トレッキングやあいさつ実習、宝探し、吹き矢、テント泊まり、清掃などを通して「人・物・自然」への感謝の気持ちを深めながら親子の絆を育みました。また、「中学生元気塾」（8月7日～10 日）「高校生希望塾」（8月 18 日～ 20 日）を開催。富士宝永登山やパフォーマンス発表などを通じて、協力や完全燃焼の喜びを体験し、家族や学校、進路、友情、恋愛などの悩みについて真剣に学びあいました。

生活倫理セミナー

生活倫理相談士としての技術と心境をみがき合う「生活倫理相談士講座」を 6 組開催しました。また、「基本」「自己受容」「源流」「自然体感」の 4 つの講座を同時開催で 20 組行ないました。

「基本講座」では学習と実践の両面から純粋倫理の理解を深め、「源流講座」では創始者の人と思想を学び、「自己受容講座」では課題を自ら発見し解決する実習などを行ない、「自然体感講座」では象徴庭園をはじめ富士の自然環境の中で学びを深めました。

企業倫理セミナー

経営者倫理セミナーは、企業の人材育成を通して「日本創生」に寄与しうる「倫理経営の実践者」の養成をめざして 10 組開催。刻々に激変する経営環境の中に生きる自分を深く凝視し、「会社・家庭・健康」の三方向から人生を総点検する講座・実習を展開しました。

５組開催した幹部社員・一般社員倫理セミナーでは、「活力朝礼」の意義を学び、実践や改善・提案の原動力となる「恩意識」を深める講座・実習を行ないました。また、新入社員倫理セミナーは３組開催。社会人としての自覚を深める起居動作のトレーニングを中心に、自己受容と感謝報恩、コミュニケーション力を高めるチームワーキングなどを学びました。

出版活動の推進

定期刊行物の編集と発行

月刊誌

『新世』
通巻 780 号～791 号
【2,747,300 部発行】

生涯学習総合誌として、家庭生活の再生、職場生活における様々な解決策を提示するとともに、若い世代から高齢者に至る広範の読者層に純粋倫理をアピールしました。体験記・生活相談室などのレギュラー記事のほか、毎月、特集企画を掲載しました。

『しきなみ』
通巻 798 号～ 809 号
【77,650 部発行】

短歌づくりを通して純粋倫理の体得をめざす、会員の作品発表の場として、出詠者数日本一の名に恥じない誌面づくりに努めました。800 号（11 月号）では、記念特集「歌の力―苦難を喜びに転ずる」と題して、珠玉のしきなみ体験記を 7 篇紹介しました。

『倫理』
第 717 号～第 728 号
【145,850 部発行】

純粋倫理の理論的・実証的研究、内外倫理思想に関する論文などのほか、「丸山敏雄生誕 120 年記念公開研究発表会（12 月号）」を掲載しました。

『秋津書道』
通巻 716 号～727 号
【55,750 部発行】

創立者・丸山敏雄の書を学ぶ会員の相互研鑽の場として、書境向上に資する課題の提供に努めました。「秋津書道体験記」も好評でした。

月刊紙

『倫研新報』
通巻 662 号～ 673 号
【1,528,300 部発行】

倫理研究所の主要行事をはじめ、全国家庭倫理の会の諸行事や、会員数 10 万社に向けて拡充に努める倫理法人会の諸活動を掲載。「創始者生誕 120 年記念公開研究発表会」、対外活動として、沙漠緑化活動、「りんりん基金」の経過などを詳報しました。

年刊誌

『倫理研究所紀要』
第 22 号【3,900 部発行】
内外の倫理思想ならびに精神文化に関する論文、ベン・アミー・シロニー氏の論説など、純粋倫理の理論的・実証的研究論文で構成しました。

ホームページ

倫理運動のバックアップ体制を強化すべく、情報の充実、迅速な発信に努めました。さらに、出版案内では、オンラインストアとしての利便性向上や、機能の充実を図りました。

隔月刊誌

『職場の教養』
通巻 441 号～ 452 号
【23,040,000 部発行】

社会全般にわたる話題・事例をテーマに、職場人としての行動指針を「今日の心がけ」として提供。活力朝礼で本誌を使用するにあたって、理解しやすいタイトル、文章表現に留意して編集しました。

『倫理ネットワーク』
通巻 98 号～ 103 号
【535,000 部発行】

倫理法人会の活動情報誌として、会員の経営体験記やエッセイ（十七カ条と私）、法人局研究員のエッセイ（丸山敏雄名言抄）などを掲載。会員が拡充に高い意識を維持できるよう、活力漲る誌面づくりに努めました。

単行本の刊行（４冊）

『おかあさん―至純な母性のよみがえりを求めて』
丸山敏秋著

子を持つ親としての「おかあさん」、わが命の元である「おかあさん」。2 つの面にわたって、母と子のつながりを問う。

『われ、日本をかく語れり―ヨーロッパ講演・対話集』
竹本忠雄著

フランスをはじめ、ヨーロッパ各地で日本文化の真髄を訴え続ける、著者渾身の 1 冊。

『倫理経営のすすめ―小さなことから会社は変わる』
丸山敏秋著

徳を如何に養うか。目前の小さな実践から始め、倫理経営に至る、入門の書。

『毅然と立つ―体験で綴る経営者の決断』
倫理研究所編

“倫理経営”によって、会社の再建を成し遂げた経営者６名の足跡を辿る。

その他

『実践手帳 2014』
【35,000 部発行】

所歌・憲章等の文字を拡大、メモ欄を設けたほか、随所に工夫を凝らし、全面リニューアル。

『2013 標語カレンダー 今日の道しるべ』
【230,000 部発行】

31 日分の標語と解説により、毎日の気づきと実践を後押しする。

純粋倫理の総合的研究

倫理運動を底支えする研究事業を推進しました。特に「地球倫理の推進」および「日本創生」に関する研究に重点を置き、その成果をあげる体制づくりを進めるとともに、普及・教育・出版に資する知的資産の蓄積、整備、構築、発信に努めました。また、「特別講演会」を開催し、内外の研究者の交流を促進しました。

月刊誌『倫理』

年刊誌『倫理研究所紀要』

研究の方向と重点

「地球倫理の推進」「日本創生」に関する研究の根幹となる純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門研究を積極的に推進し、純粋倫理の体系化ならびに「倫理文化学」の構築をめざす研究を行ないました。

ア. 純粋倫理の研究

純粋倫理の基礎的研究を推進するとともに、専門的研究を進めました。

研究員	研究テーマ
丸本征雄	丸山敏雄の著作にみる「譬え・比喩・ユーモア」
戸田徹男	実証研究「ひきこもりが解決に向かう家族関係」
伊勢田豊	経営理念の浸透～その取組みの実例～
田中範孝	「犠牲」の視点から見る支え合う人間関係の研究
野中寛治	地球倫理の主要題目としての平和と倫理
宇都進一郎	石田梅岩の研究
島田光男	「秋津書道」誌巻頭論文に見る創始者の書道理念の成立過程
御所園正信	太陽崇拝の習俗と倫理
平尾　勝	人格形成における生育環境の影響とその倫理的考察
那須　隆	所内における体験調査の展望
小川太郎	純粋倫理に基づいた結婚準備教育カリキュラムの研究
三浦貴史	「ひとのみち」教団弾圧事件の考察② ―国家神道と民衆宗教の相克―

イ. 倫理文化に関する専門研究

「倫理文化学」を構築するための諸研究、ならびに日本文化の本質を明らかにする研究を行ないました。

研究員	研究テーマ
高橋　徹	人生の重荷―誰もが抑圧されている
寛ボルテール	無形文化遺産のあり方―日本食文化からの観点による考察、及び記憶との関わり
内田智士	協調の発展に対するサンクションの効果について
松本亜紀	身体観の変容にみる「いいお産」観と助産ケアとの関連性についての研究
嚴　錫仁	夫婦関係論の研究及び江戸思想史における家族・家庭

ウ. 委託研究

研究員	研究テーマ
越智秀一	柳宗悦と民藝の倫理
土屋　久	島の霊性Ⅱ―霊性に関する研究史の整理と黒潮圏の巫俗―

特別講演会の開催

平成 25 年 8 月 3 日、竹本忠雄筑波大学名誉教授を招いて「われ、日本をかく語れり」をテーマに特別講演会を開催（於：倫理文化センター）。講演、映像上映、レセプションの三部構成。231 名が来場しました。

大規模調査の実施

子供を持つ母親 900 名を対象に「日本人の家庭教育観」についてインターネット調査、考察を行ないました。調査成果は所内研究発表にて公表しました。

＊調査企画：研究センター・海野裕（IMC コンサルタント）

研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」「日本国史学会」など諸学会の活動に協賛し、専門家との交流を深めました。特に、日本家庭教育学会では、第 28 回大会の委員として企画、実施にあたりました。また道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、ならびにその研究者との積極的な交流を図り、必要に応じてその活動を支援しました。

『倫理文化研究叢書』の刊行

「倫理文化学」構築の一環である倫理文化研究叢書、第 5 弾『われ、日本をかく語れり―ヨーロッパ講演・対話集』（竹本忠雄著）を刊行しました。

研究資料の整備と提供

純粋倫理の実践報告原稿、「実践報告カード」合計 1,411 篇を蒐集。内 950 篇を分類整理し、検索システムに入力。また、当該年度に発表された論文・論考などを分類整理し、純粋倫理の基礎的研究に資する資料を整備。必要に応じて研究、教育、普及、出版活動の担当者に提供しました。

遺品・図書資料の整備

倫理資料館では、創始者の遺品蒐集・整備ならびに純粋倫理・倫理文化・日本文化・内外倫理思想研究などに資する図書資料の整備を進め、倫理・道徳に関する専門図書計 1,595 冊、丸山敏雄記念文庫 2 冊、丸山竹秋蔵書 6 冊、湯浅泰雄記念文庫 9 冊を受け入れ、分類・整理しました。

ホームページでの研究成果の発信

倫理研究所のホームページ上に、諸研究成果を掲載しました。さらに、インターネットでの独自の研究成果発信の可能性と方法を検討しました。

研究論文

『倫理研究所紀要』第 22 号：掲載論文

- 道徳教育の振興と課題　丸山敏秋
- 平和の原理としての純粋倫理　野中寛治
- 「ひとのみち」教団弾圧の背景に関する考察　三浦貴史
- 「利他性」の科学的取り扱い　内田智士
- ツミと苦しみの悪循環　高橋　徹
- 和食の無形文化遺産化と日本のアイデンティティー　寛ボルテール
- 儒教夫婦倫理の現代的地平　嚴　錫仁
- 出産の近代化過程における産屋習俗の変容　松本亜紀
- 事業承継の観点から見た連帯保証人制度の動き　津島晃一
- 柳宗悦と民藝運動における美と倫理　越智秀一
- 中国における倫理学の成立と日本思想との交流　龔　穎
- 日露戦争はなぜ忘れられたか、なぜ、記憶されるべきか　ベン・アミー・シロニー
- 「聞き書き」の機能とその可能性　土屋　久

『倫理』第 717 号～728 号：主要掲載論文

【巻頭論文／日本の「かたち」と「こころ」】

- 帝国憲法に見る日本の「かたち」　丸山敏秋
- 横井小楠の「道義国家」論　〃
- 上下一心 ―「五箇条の御誓文」の精神　丸山敏秋
- 水戸学における「日本」の発見　〃
- 大変革の構想と実施 ―「西郷隆盛と日本」　〃
- 私心なく愛せよ ―「西郷隆盛と日本」　〃
- 維新と大義 ―「西郷隆盛と日本」　〃
- 「夜明け」は遠く ―「新しき古」という理想　〃
- 本居宣長の政道論 ―「新しき古」という理想　〃
- 本居宣長における学問と信仰 ―「新しき古」という理想　〃
- 「王政」と「復古」の乖離 ―「新しき古」という理想　〃

【論文】

- 蔵書に見る純粋倫理の芽生え（一）（二）　三好雅典
- 「誕生」と「死」の場の変遷と死生観の変容・3～6　松本亜紀
- 利他の性質・1～5　内田智士
- 知覚における鏡の作用・1～3　高橋　徹
- 「ひとのみち」弾圧事件の背景の考察・1～3　三浦貴史
- 食の無形文化遺産化と日本（一）（二）（三）　寛ボルテール
- 『ひとのみち婦人』の書道講座　島田光男
- 謄写版刷り『秋津書道』の書道講義　〃

倫理研究所の事業概要

倫理研究所は生涯学習を推進する民間の社会教育団体です。和やかな家庭、活力のある職場、明るい地域社会をつくることが、美しく平和な社会を築く第一歩と考え、人間生活のすじみちを学び、日々の実践に努める人々の輪を拡げるべく、さまざまな事業を展開しています。

倫理研究所は一般社団法人および一般財団法人に関する法律のもとで認可された民間の社会教育団体です。〈研究〉〈教育〉〈出版〉〈普及〉の諸活動を行なっているほか、文化芸術活動や環境美化活動にも力を入れています。会員は、倫理研究所の趣旨に賛同する全国各地の個人および法人です。

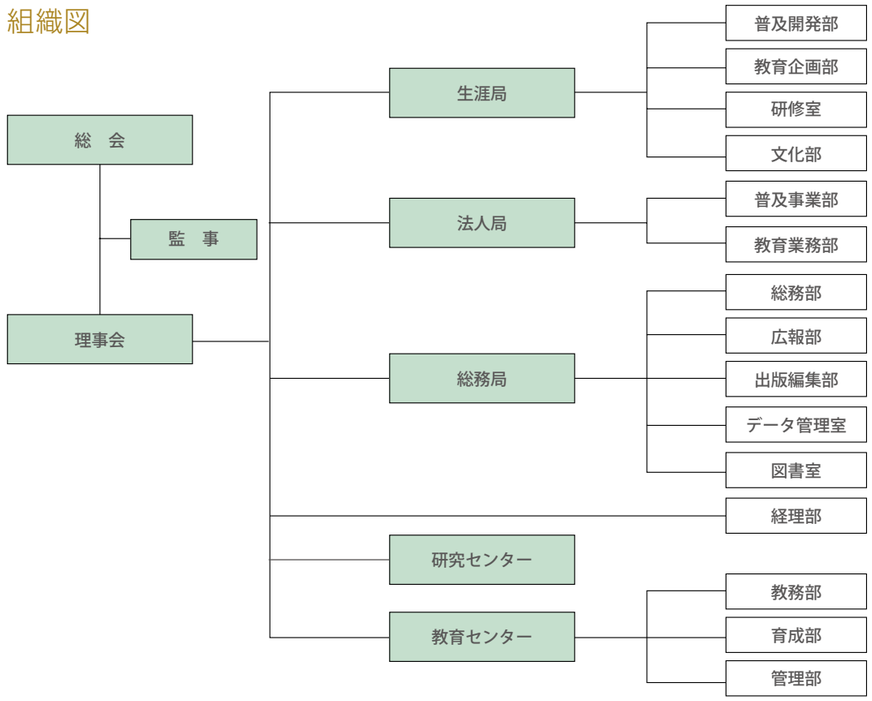
創立は昭和 20 年 9 月 3 日。敗戦後、世情が混乱し道義が退廃した国の姿を憂えた丸山敏雄が、道義の確立をもって日本を再建したいと、論文『夫婦道』の筆を執ったことから倫理運動が始まりました。永年にわたる研究から発見した生活法則を「純粋倫理」と名づけ、多くの共鳴者、協力者を得て、昭和 21 年に研究機関として「新世文化研究所」を設立。昭和 22 年には純粋倫理の普及を推進する組織として「新世会」を設立。翌年には社団法人の許可を受け、昭和 26 年に「社団法人倫理研究所」と改称しました。

その後、倫理運動は個人会員組織を「家庭倫理の会」、法人会員組織を「倫理法人会」と称して活動を展開。平成 25 年 9 月 2 日、公益法人制度改革に伴い、一般社団法人移行の認可を受け、名称を「一般社団法人倫理研究所」に変更しました。

組織概要

名　　称　一般社団法人倫理研究所
英 文 名 称　RINRI Institute of Ethics
役　　員　理 事 長　丸山敏秋
　　常任理事　前川朋廣／徳江秀雄／内田文朗
　　理　　事　11 名
　　監　　事　２名
職　　員　159 名
所　在　地　倫理文化センター　〒 101 － 8385　東京都千代田区三崎町３－１－10
　　TEL 03 － 3264 － 2251 ／ FAX 03 － 3239 － 7431
創　　立　昭和 20 年 9 月 3 日
　　昭和 23 年 10 月 30 日に社団法人設立許可
　　平成 25 年 9 月 2 日に一般社団法人移行
目　　的　純粋倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、
　　もって民族の繁栄と人類の平和に資する。
事　　業　1. 社会教育事業
　　2. 研究事業
　　3. 出版・広報事業
　　4. 文化事業
　　5. 地球倫理推進事業
ホームページ　http://www.rinri-jpn.or.jp

組織図



会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

【会員数（平成 25 年 8 月末時点）】

家庭倫理の会　190,330 名　/　倫理法人会　63,880 社
秋津書道会　3,779 名　/　しきなみ短歌会　5,479 名

【会費（月額）】

○個人会員 500 円　/　賛助会員 1,000 円　/　協賛会員 3,000 円　/　特別賛助会員 10,000 円
○法人会員 10,000 円（一口）
○秋津会員　正会員 1,500 円　/　ジュニア会員（幼児～中学生）800 円
○しきなみ会員　正会員 1,000 円　/　ジュニア会員（幼児～中学生）500 円

純粋倫理と創立者

純粋倫理とは

自分をとりまく多くの人々や、物や自然との関わりなしには生きられない私たちです。そこには、おのずから社会生活の規範が生まれます。 人と人、人と物、人と自然の間にある道。人間の行なうべき道筋。くらしみち。——それが純粋倫理です。物の世界に「物理」という法則があるように、人間には「倫理」という法則があるのです。「こんなときどう行動すればいいのだろう」「どんな姿勢、どんな心がけが幸福を招くのか」「人間関係をよくする秘訣はあるか」「人生の岐路にたったときの心構えがほしい」「この苦しみをどう受け止めればいいのか」……そんな問いに答える人生の指針、道しるべとして、人のあるべき道を純粋倫理は示します。

それはただ知っているだけでは意味がありません。実際にやってみることで、正しさがわかるもの。実生活に役立ててはじめて、「なるほど、倫理とはこういうことか」と腑に落ちてくるものです。人間生活の規範といえば、一般に「道徳」という言葉を連想します。もちろん道徳は、先人の叡智の結晶として尊ぶべきものですが、反面、特定の時代や民俗にしか通用しないものだったり、「〜しなければならない」と規制ばかり強くて、窮屈な面があります。また、それを守ったからといって、必ずしも幸福になるとは限りません。純粋倫理は自分や人を縛るものではなく、時代や場所、周囲の環境を問わず、いつでもどこでも誰でも実行できるものです。

しかも、それを守って生活していくと必ず幸福となる。徳と福が一致する。ここに大きな特徴があります。純粋倫理は、丸山敏雄（1892 〜 1951）により発見され、提唱されました。丸山敏雄の遺した『万人幸福の栞』には、そのエッセンスが 17 の項目に分けて凝縮されています。

子供と親の目に見えないつながり、働くことの意味、肉体と精神の関係、捨てる極意、苦しみを幸福に転じる心の持ち方——どれも日常生活にピタリと結びついた暮らしの指針であり、宗教や学説をもこえた自然の法則です。

創立者・丸山敏雄

明治 25 年5月5日、福岡県豊前市生まれ。広島高等師範学校を卒業し、師範学校などの教諭として奉職。37 歳で広島文理科大学に入学。日本の精神文化、歴史を研究するとともに、書道や和歌など芸術分野でも研鑽を積む。昭和 13 年に「秋津書道院」、昭和 21 年に「しきなみ短歌会」を創設。さらに、長年に渡る宗教や道徳などの研究を土台に、自らの実践、体験を積み上げながら、「人間生活のすじみち」を研究し続け、それを純粋倫理と名づけた。

その後、数多くの論文を発表しながら純粋倫理を体系づけることに力を注ぐ。昭和 20 年に倫理運動を興し、「新世文化研究所」（現・倫理研究所）を創立。自ら陣頭に立ち、一人でも多くの人に純粋倫理を伝えるべく、教育や講演、執筆に身命を賭す。『万人幸福の栞』『無痛安産の書』『人類の朝光』など著書多数（すべて新世書房刊）。
昭和 26 年 12 月 14 日逝去。

倫理研究所の主な施設

倫理文化センター
東京都千代田区三崎町３－１－10

倫理運動推進の本部機能を有する倫理文化センター。社会教育施設としての機能を充実させ、本部職員が業務を行なうほか、ホールや会議室を利用して、国際会議や研修会も行なわれます。

富士教育センター
静岡県御殿場市印野 1383 － 85

静岡県御殿場市にある教育施設です。純粋倫理の理論的・実践的学習のために、「生活倫理セミナー」「企業倫理セミナー」「青少年育成セミナー」などの各種セミナーを行なっています。センター内には、富士高原研修所・富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。

天和会館
福岡県豊前市大字天和 392

倫理運動の創始者丸山敏雄の生家（平成 19 年復元）に隣接した会館です。伝統建築の粋を集めた家屋は、主に倫理研究所の研修施設として活用されています。豊前市の新たな観光名所としても注目を集めています。

倫理資料館
東京都武蔵野市境５－６－ 25

創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの収集・保存整理を行なっています。『丸山敏雄全集』に基づき、遺品管理データベースの構築を進めるとともに、遺墨の修復を実施し、さらなる内容の充実をめざしています。

沿　革

1945（昭和 20） 丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿、倫理運動を創始。
1946（昭和 21） 「新世文化研究所」設立（初代所長、丸山敏雄）。
1947（昭和 22） 「新世会」設立。
1948（昭和 23） 「新世会」が社団法人の許可を受ける。
1949（昭和 24） 「朝の集い」開始（上野、神田、銀座、市川）。
1951（昭和 26） 「新世会」を「社団法人倫理研究所」と改称。丸山敏雄逝去。丸山竹秋、理事長に就任。
1966（昭和 41） 富士高原研修所竣工。
1967（昭和 42） 中日支所設立、支所体制がスタート。
1973（昭和 48） アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
1980（昭和 55） 千葉県に第 1 号の倫理法人会発足。
1985（昭和 60） 創立 40 周年記念大会にて丸山竹秋理事長が「地球倫理の推進」を提唱。
1986（昭和 61） 中華民国（台湾台中市）に拠点開設。
1987（昭和 62） 第 1 回日中実践倫理学討論会を北京にて開催。
1989（平成元） 丸山竹秋理事長、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。第 1 回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア」に参加（以後、毎年参加）。
1990（平成 2） 倫理法人会 10,000 社達成記念大会開催。
1992（平成 4） 丸山敏雄生誕 100 年記念大会開催。
1995（平成 7） 創立 50 周年記念大会を東京と沖縄で同時開催。丸山竹秋理事長が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表。
1996（平成 8） 丸山敏秋、理事長に就任。
1998（平成 10） 第 1 回地球倫理推進賞贈呈式開催（以後、毎年）。倫理資料館竣工。
1999（平成 11） 倫理法人会 20,000 社達成記念大会開催。創立 55 周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成スタート（以降、毎年派遣）。丸山竹秋逝去。
2000（平成 12） ブラジルにサンパウロ支部設立。
2001（平成 13） 新富士高原研修所グランドオープン。
2002（平成 14） 創始者没後 50 年記念大会を全国 7 カ所で開催。
2003（平成 15） 第 1 回こども倫理塾大会開催。
2004（平成 16） 倫理法人会 40,000 社達成記念大会開催。
2005（平成 17） 「家庭倫理の会」発足。「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。創立 60 周年記念式典、青年フォーラム 21 全国大会開催。ハワイ支部設立。
2006（平成 18） 創始者生家（復元）竣工。丸山敏雄「書と心」展開催。第 1 回しきなみ子供短歌コンクール表彰式を開催（以後、毎年）。
2007（平成 19） 倫理法人会 50,000 社達成記念大会開催。
2008（平成 20） 第 1 回日中青年沙漠緑化交流開催（以後、毎年）。
2009（平成 21） 「地球倫理の森」創成 10 周年記念大会開催。丸山竹秋会長没後 10 年記念大会開催。
2010（平成 22） 創立 65 周年記念式典開催。
2011（平成 23） 富士教育センターオープン 45 周年およびグランドデザイン完成。
2012（平成 24） 丸山敏雄生誕 120 年記念行事ならびに式典を開催。創立者展示室オープン。
2013（平成 25） 一般社団法人へ移行。

一般社団法人 倫理研究所

〒101-8385 東京都千代田区三崎町3-1-10 TEL 03-3264-2251/FAX 03-3264-7881
ホームページ　http://www.rinri-jpn.or.jp
発行／一般社団法人倫理研究所　編集／倫理研究所広報部　発行日／2013.11.20